



鮮赤紫色の「クルクマ愛知1号」を開発

開発の背景・ニーズ

クルクマ（切り花）の生産は、全国的にも品種「シャローム」が9割以上を占めていますが、他県産地では新しい品種の導入が始まり、他産地との差別化を図るためにもオリジナル品種が求められています。また、夏期の鉢花需要の底上げのため、新しい品目の掘り起こしが急務となっています。

成果の内容

観賞持続性が優れ、コンパクトな切り花形質で、盆や彼岸向けの仏花などの需要に加え、花束やフラワーアレンジメントなどの新たな需要も期待され、夏期の高温期鉢花にも向く新品种を開発しました。平成23年10月に育成を完了、12月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。



種子親 「ピンクパール」

長所

極早生
下位ほう葉まで発色
草丈が40~60cm

短所

収穫本数が少ない
球根の休眠開始が早い
個体差が大きい



花粉親 「チェンマイルージュ」

長所

早生
花冠が大きい
草丈が40~50cm

短所

観賞持続性にやや劣る
秋期のボリューム低下
さび斑病に罹病しやすい



クルクマ愛知1号



切り花



鉢花

【クルクマ愛知1号の特徴】

- ・「ピンクパール」の下位ほう葉まで発色する性質と「チェンマイルージュ」の草姿、鮮赤紫色の花色を併せ持つ。
- ・花色が鮮やかな赤紫色で、観賞持続性は「シャローム」と同等で優れる。
- ・「シャローム」と違い、秋期にボリューム不足になりにくい。
- ・切り花本数は「シャローム」の2倍と多収性である。
- ・草丈40~60cmで鉢花栽培にも向く。



現在の主力品種
シャローム

愛知県農業への貢献

全国シェア10%を誇る愛知県のクルクマ生産（切り花）に、オリジナル品種が加わることで、県産クルクマのブランドイメージが上がり、産地間競争力の強化に貢献します。また、夏期の新しい鉢物品目は、県内鉢物産地の活性化につながります。